

談懇と会長野庭

聖路加国際

病院理事長で
同名誉院長の
日野原重明氏
が16日、本会
を訪れ、大聖
堂で庭野日鏡
会長と懇談し
た。写真。渡
邊恭位理事

務局長、林茂一郎佼成
院長が同席した。
同氏は1911年山口
生まれ。講演は年間1
0回を数え、98歳で現
の臨床医。日本ユニセ
フ会の大使でもある。
以上の人々の人生経



験や平和の大切さを次世
代に伝えようと、「新老
人の会」を10年前に結成
した。

懇談では、日野原氏が
そうした活動を説明。ま
た、庭野平和賞や仏讃歌
佼成病院ビハハラ病棟な
どが話題に上った。

ユニセフの事務局長に就任した レーク氏に渡邊理事長が面会

1日付でユニセフ（国
児童基金）本部・ニュ
ーク）の第六代事務
長に就任したアンソニ
・レーク氏が来日し、

東京の国連大学ピ



ルで公開イベントが行わ
れた。本会から渡邊恭位
理事長、松本貢一青年本
部長、国富敬二総務局副
局長が出席した。

レーク氏は米国・ニュ
ーク出身。カーター
政権で国務省政策企画本
部長、クリントン政権で
国家安全保障担当補佐官
を歴任し、オバマ大統領

の選挙キャンペーンでは
上級外交政策顧問として
活躍した。ユニセフ米
国内委員会の執行理事、
同理事長も務めた。

イベントには各国大
使、政府関係者、国連機
関やNGO（非政府機関）
などパートナー団体の代
表らが出席。あいさつの
中でレーク氏は、ユニセ
フに対する日本の貢献を
高く評価した上で、国連
ミレニアム開発目標の達
成に、真剣に取り組み重
要性を強調した。

このあと、レセフシヨ
ンで渡邊理事長はレーク
氏に面会し写真。ユニセ
フと本会の緊密な協力関
係を確認し合った。

ユニセフ、WCRP

共催シンポジウム

「紛争下・後にお ける子ども保護」

ユニセフとWCRP
（世界宗教者平和会議）
共催のシンポジウム「紛
争下・後における子ども
保護」宗教者の役割」
が14日、東京・港区のユ
ニセフハウスで開催され

た。WCRPの関係者、
市民ら約70人が参加。本
会から渡邊恭位理事長、
松本貢一青年本部長らも
出席した。

同シンポジウムは、ユ
ニセフとWCRPが合同
で進める、フィリピン・
ミンダナオ島などでの
「宗教者による紛争下・
後の子ども保護」事業を
基に紛争、子ども保護、
宗教者というキーワード
を軸に議論を行う目的で
実施された。

日本ユニセフ協会の早
水研専務理事のあいさつ
に続き、パネリストのス
ティーブン・ハマー・ユ
ニセフ本部プログラム事
業部市民社会連携担当専
門官、杉野恭一WCRP
国際委員会事務次長、パ
フリト・バイバド・セント
トーマス大学宗教研究所
教授、木山啓子・特定非
営利活動法人「ジェン」事
務局長の4人がそれぞれ
の立場から子どもへの保護
や平和に向けた宗教者の
役割について発言した。

ニュース

ダイジェスト

◆第3回フォコラーレ大志・
文化交流団がイタリヤへ